

利き酒会場、初めて「杜氏の郷」で

第19回越後よしかわ酒まつりが2日、杜氏の郷広場で開催されました。天気が良かったこともあって、どこも賑わっていましたね。

今回から利き酒会場はゆったりの郷体育館から榎よしかわ杜氏の郷の酒造り見学スペースへと変わりました。狭くなりましたが、その分、活気に満ちている感じがしました。会場では中島正栄さんや五十嵐文彦さん（いずれも故人）などの懐かしい名前とも再会しました。

テントでは、地元商工会や生産組合などのみなさんが出店、盛り上げていただきました。私はまず尾



神そばを2杯食べ、コーヒーを飲みました。川谷もよでのテントは焼きおにぎり、それかから赤購入してきました。いずれも美味しかったです。

今回も東京、東区、吉川、荒川、都さん力いただきました。



年に行われた消費税率の引き上げと、大企業・大金持ちだけが儲かるしくみのアベノミクスなど、安倍政権の悪政によって、市民生活がきわめて厳しさを増す中で行われた予算執行の結果。暮らしを守る最前線に立つ自治

そのうえで、「実際には、多くの公共施設の利用料や放課後児童クラブの利用料など、市民の負担を数々の場面で増やし、市民の暮らしを守るどころか、政府同様、市民負担を増やし、市民の暮らしには過酷な行政執行であった」一方、(仮称)産業厚生会館や新水族博物館の建設事業費においては、当初示された予算規模をはるかに上回る莫大な事業費を計上し執行してきた。市民合意のないまま、後出しジャンケンのような形で事業費をふくらませ、一方では日常的な行政サービスにおいて市民に我慢を強

市民負担を増やし、市民の暮らしを圧迫する行政執行だと批判 日本共産党議員団の平良木議員が平成27年度一般会計決算認定でも反対討論

9月27日の9月議会最終日の続報です。日本共産党議員団の平良木議員が行った平成27年度上越市一般会計歳入歳出決算認定についての討論概要を報告します。

平良木議員はまず、「今回の決算は、その前

体行政としては、市民負担の軽減と行政サービスの充実をとことんはかり、国の悪政から市民の暮らしを守る姿勢を徹底するという姿勢で、予算執行を行うことが必要」だったとのべました。



【フジバカマ】キク科の多年草。秋の七草のひとつとして有名です。漢字で「藤袴」と書きます。昔は河原などでも見られましたが、最近はなかなか見られなくなっています。写真は吉川区にて撮影しました。



【オニバスの花咲く】

今年もオニバスの花が咲きました。昨年もそうでしたが、「もう今年はダメだね」といった声が出始めると咲くのです。今年は9月の下旬からピンク色の花を咲かせています。吉川区小苗代にて5日撮影。

いるというやり方は、断じて認めるわけにはいかない。住宅リフォーム助成制度の継続など、地域経済の活性化をはかる積極的な取り組みが行われたことは評価するものの、全体としては多くの問題をはらんだ決算である」とのべました。そのほか、小中学校における給食の民営化路線の推進、同和関係予算の執行などの問題があると指摘しました。

そして、市民負担増とは裏腹に、年度末に146億円という膨大な額に膨らんだ財政調整基金についても言及、「今後の交付税の縮小に備えるとしても、他方では多くの建設事業が計画されており、財政運営の矛盾を露呈している。何よりも大切なことは、まず必要な市民サービスを着実に実行することだ」と訴えました。

はしづめ法一の活動レポート

No.1777 2016.10.9

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見たある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第四二五回

駅伝近し

母の定期検査で市内の病院に行ったときのことで。予約した時間にMRI（強い磁石と電波を使って体内の状況を調べる検査）の場所へ行くと、背の高い男性がニコニコしてこちらを見えています。

男性はタケシさん、上越市吉川区に住む友人でした。タケシさんについては、体調を崩し入院していると聞いていたので、「どうしたの？」と訊（き）くと、一か月ほどで退院していて、その日は検査に来たということでした。

タケシさんとは四月以来の再会です。母が検査室に入ってから、二人で青年団時代の話をして盛り上がりました。

タケシさんも私もかつては「走ろう会」の仲間であり、駅伝の選手でした。走るということが好きだというだけでひとつになったグループですが、走っては飲み、おしゃべりを楽しんでいました。また、一緒に出かけたこともありました。確か、夜通しで歩くと会って柏崎市まで行ったのも「走ろう会」の取組だったと思います。

話はずんで、駅伝を走る人はその人の親も子も走るケースが多いという話になりました。アキノリさんの兄弟だか子どもさんも走り早くて選手になった、シヨウイチさんのところは兄弟して早かった、タケシさんが次々と出してくる例にはうなずくことばかりでした。こうした人たちの体の中には共通して駅伝好きの血が流れているのではという話にもなりました。

考えてみれば、私の兄弟もそろって走るのが好きでした。飛びぬけて早い者はいまいませんでしたが、走ることを得意にしている、ねばり強く最後まで走り抜き、それなりの成績を収めていました。私の場合、高校時代は校内マラソン大会において、陸上部の人たちと上位で争いました。

話をしている、感心したのはタケシさんの記憶力です。勤務地の地元チームに入っていて四回優勝したとか、各チームがスピードランナーを配置する一区で区間賞をとったことがあるなどいろいろなことを記憶しているのです。彼は町の中心部、原之町チームでは二回走り、竹直や大乘寺のチームの一員としても走ったそうです。

最後に彼が走ったチーム名はオールドゲツパズ、「走ろう会」のメンバーでつくられたチームです。じつは、「走ろう会」のメンバーはチームをもうひとつ、つくっていました。そのチームはヤングゲツパズでした。ヤング、オールドいずれのチームもゲツパズですから、走るのが遅いと思われがちですが、どうしてどうして、けっこう頑張っていました。タケシさんの記憶ではふたつのチームの力にたいした差はなく、駅伝大会では五、六番目に入ったこともあるそうです。参加チーム数が一五以上もあつた時代のことで、上位に入っていたということでした。

話をしている、二人で「そうだよ」と一致したのは、チームが同じ人はもちろんのこと、チームが違っていたとしても、一緒に走った人とは生きていくうえで連帯感みたいなものがあるということでした。それは、ほとんど走ることがなくなつたままも続いています。とにかく、どうしているかと気になるのです。

母が検査を終えて出てくるまでの十数分間、タケシさんは、駅伝のことだけでなく、町内会の仕事のことなども話してくれました。そうそう、彼の隣の家に赤いゲンノシヨウコがきれいに咲いているということも話してくれました。体は大きいですが、植物などの小さなものへも心を傾けるやさしい人ですね、この人は。

消防車両の走行距離、立ち入り検査などで質問



上越地域消防事務組合議会定例会が4日にありました。主な議案は平成27年度一般会計決算認定、職員の退職管理に関する条例制定、平成28年度の一般会計補正予算でした。いずれも全会一致で可決しました。

このうち、平成27年度一般会計決算認定での審査で私は、①消防、救急車両の走行距離がどれくらいになっているのか、②職員のメンタルヘルスの現状と対策、③火災などに関する立ち入り検査についてコンパクトに質問しました。

このなかで車両の走行距離がどうなっているかについて質問したところ、「3カ月、6カ月、12カ月点検、車検をきちんと行い対応している」との答弁でしたが、具体的な数値が明らかにされなかったため、台数の多い消防ポンプ自動車、高規格救急自動車について、走行距離の一番長いもの、一番短いもの、平均を資料として提出するよう

めました。これは議会として要求することになりましたので、後日、提出されるでしょう。消防車両については、以前の議会において、走行距離が20万キロを超えていることが明らかにされたことがありました。

メンタルヘルスに関しては、「7月にストレスチェックをしたところ、19人が高ストレス者だった」ことが明らかにされました。十分なケアをしてほしいものです。立ち入り検査では、「重大な違反行為はなかったものの、細かい部分で注意事項はあったことから改善を指示した」とのことでした。



戦争法反対のスタンディング続く（5日）

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのことでした。

	9月28日(水)	10月21日(水)
上越南消防署	0.057	0.040
上越北消防署	0.057	0.050
新井消防署	0.050	0.057
頸北消防署	0.060	0.043
頸南消防署	0.040	0.053
東頸消防署	0.047	0.047
高士分遣所	0.043	0.047
名立分遣所	0.057	0.053